



ギル・ローズ Gil Rose

アメリカ出身の指揮者。20世紀から21世紀に作曲された交響曲の演奏および録音を専門にしている一流プロフェッショナルオーケストラ、ボストン・モダン・オーケストラ・プロジェクト(BMOP)の創設者でもある。

2002年に初めてタングルウッド音楽祭で指揮し、そのときに小澤征爾と出会う。2003年にはオランダ放送交響楽団を率いてオランダフェスティバルで初公演を行う。その後、アメリカン・コンポーザーズ・オーケストラ、ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団、ウクライナ国立交響楽団、クリーヴランド室内交響楽団、スイス・イタリアーナ管弦楽団、ポルト国立管弦楽団を指揮。

2003年からオペラ・ボストンの音楽監督を務め、2010年にはオペラ・ボストン初の芸術監督に就任。オペラ・ボストンでは、ショスタコーヴィチの「鼻」、ウェーバーの「魔弾の射手」、ヒンデミットの「カルディヤック」など、様々な作品のアメリカ初演やニューイングランド初演を指揮。2009年には、周龍作の「白蛇伝」(2011年ピューリッツァー賞音楽部門受賞作)の世界初演を指揮。2011年には、今回のOMFで指揮を執るベルリオーズのオペラ「ベアトリスとベネディクト」を指揮。

また近年では、多岐に渡るオペラ作品を様々なフォーマットで上演する独創的な一団、オデッセイ・オペラの結成を発表。このオペラ・カンパニーは2013年9月にデビューを飾り、コンサート形式で行った五時間半にも及ぶワーグナーの「リエンツィ」の公演は高い称賛を浴びた。

精力的なレコーディングアーティストでもあり、レコーディング会社BMOP/soundのエグゼクティブ・プロデューサーを務めている。また、2012年の芸術監督としての就任以来、長い歴史を持つモナドノック音楽祭を率いている。

教育者としての一面も持ち、オーケストラ・アクティビティのディレクターをタフツ大学で5年間務めた。2007年には、コロンビア大学より名誉あるディッスン賞と、さらにASCAP(米国作曲家作詞家出版社協会)コンサートミュージックアワードを受賞。グラミー賞にも今までに3回ノミネーションされている。